

目的：演者らは、本学会の第40回全国大会において、杯細胞 goblet cell (以下は、G・Cと略す)とパネート細胞 Paneth cell について報告した。本実験では、ある一定の期間において回腸の絨毛上皮に多く存在する空胞化細胞 (以下は、V・Cと略す)とG・Cの検討を行ない知見を得たので報告する

材料と方法：本実験に使用した動物は、生後4日齢のWistar-Imamichi-RATである。各臓器の採取方法は、開腹を行ない、十二指腸と空腸および盲腸に近い部位の回腸を切り出し、zamboni液で浸漬固定した。染色方法は、Hematoxylin-Eosin (H・E)とPeriodic Acid Schiff reaction (PAS)であり、染色後は、通常の方法で脱水・透徹・封入を実施した。

結果：(1)他の腸管(十二指腸と空腸)と比較して、V・Cが最も多く観察されたのは回腸である。(2)回腸絨毛上皮におけるG・CとV・Cの比率は、14.6%であった。(3)G・Cが多くみられたのは、十二指腸である。